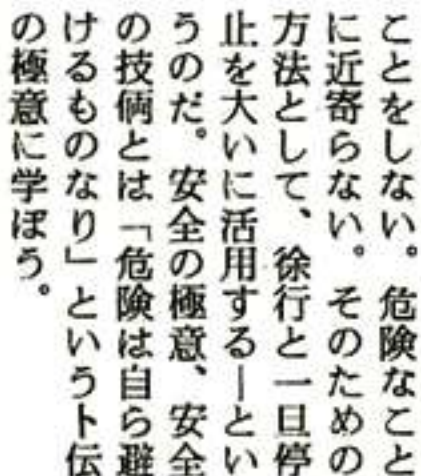


TEL 甲府 (0552) 37-7827



第19回交通安全国民運動中央大会

本県安協が全国表彰

新しい交通秩序の確立を

運転者の社会的責任の自覚と、新しい交通秩序の確立をめざし、さらに交通事故を減少せよと、全日本交通安全協会・都道府県交通安全協会主催の第19回交通安全国民運動中央大会が、一月十八日、十九日の両日東京で開催されました。本県関係の受賞者は次のとおりです。



常陸宮同妃両殿下ご臨席の本会議……日比谷公会堂で



県安協が受賞した盾

お言葉

多年にわたる官民一体の努力の結果、わが国の交通安全は、ここ数年、毎年減少をつづけていることは、まことに喜ばしいことです。しかしながら、死者は、今年も年間六十万人にも及んでいることは、まことに憂うべきことです。

宣言

交通事故は、ここ数年減少の傾向を示してきたが、現下のきびしい交通情勢から、予断を許さない状況にある。しかも歩行者、自転車、とくに子ども、老人の事故多発は、憂慮すべきものがある。

- ここにわれわれは、第19回交通安全国民運動中央大会を開催するにあたり、決意を新たに、運転者の社会的責任の自覚と新しい交通秩序の確立を旨とし、さらに交通事故を減少させることを誓う。
- 一、歩行者および自転車、とくに子どもと老人の事故防止
 - 二、自動車および原動機付自転車の事故防止
 - 三、無謀運転の防止と運転マナーの向上
 - 四、企業等における安全運転の確保
 - 五、シートベルト、ヘルメット着用

右宣言する。

昭和五十四年一月十九日

第19回交通安全国民運動中央大会

交通安全賞章に輝く人

高山 優氏

金章は、安協表彰で最も高い栄誉で、本県で優良運転者としての受賞者は五人目です。



小林貞治氏



「緑十字銀章」を受賞した小林氏は、平素無口で余計なことは言わない人ですが「光栄です」とよろこびを語っていました。

高野慶貴氏

交通安全功労者として「緑十字銀章」を受賞した高野慶貴氏は、県安協理事、塩山安協会長です。地区安協の役員経験も長く、評議員、理事、副会長、会長と通算二十七年の実績があります。

「横断旗」を大切に

「横断旗」は、横断歩道を渡る場合に、自動車の運転者に対し、歩行者が通行中であることを知らせ、安全に渡ることができるようお除様で、山梨県安協は



交通安全を呼びかけるシンボルタワー（富士吉田署で）

交通安全のシンボルタワー

富士吉田安協では、富士吉田署の玄関口に、交通安全を呼びかけるシンボルタワーを建設しました。これは同安協が創立二十五周年を記念して建てた「記念広塔」で、高さ七メートル、

橋

宮野 貢 作詞
清水 吾郎 作曲

あゝ橋のくらの 渡る橋
この橋のくらの 渡る橋
にこにこ皆んなが 渡る橋

橋

宮野 貢 作詞
清水 吾郎 作曲

あゝ橋のくらの 渡る橋
おびえるように 自転車も
走って行く橋 渡る橋

でも正しい運転に心掛けるよう強く訴えています。二 自転車のきまりと正しい乗り方
道交法改正で自転車の通行方法が変わりました。16ミリ、カラー、23分、この映画は、少年少女たちが、自転車に乗るときに、基本的な方法と、改正道交法による自転車のきまりと正しい乗り方を、わかりやすく順序だてて説明しています。

三 みんなで守ろう道路交通法
改正のあらまし——16ミリ、カラー、25分、運転者向。

昨年十二月一日改正の、道交法など関係法令をわかりやすく、具体的に説明したもので、運転者講習会用に最適です。

四 バンダちゃんの、じてんしゃきょうしつ
幼児や低学年の間で「自転車遊び」がますます盛んになっていきます。しかし、心配なのは交通事故です。この映画は、こどもたちに正しい、安全な自転車の乗り方を身につけさせるために、安全の知識やルールを楽しくみながら教えてくれます。

複数事故が多発

昨年の県内交通事故

件数・傷者減る

死者は増加し106名

昨年一年間の県内の交通事故は、件数、傷者は減少し、昭和四十七年以来七年連続減少となりましたが、残念ながら死者は前年に比べ六名増の百六名となり、連続七年減少の目標を達成することはできませんでした。これに伴って、人口十万人当たりの死者数も、前年の一二・七人から一三・四人と上昇し、全国平均七・七人を五・七人も上回り、ワースト四位という状況で、交通危険度の高い県となっています。なお、一日平均の発生状況は、件数一〇・七件、死者〇・二九人、傷者一・四三人となります。全国および県下の交通事故の発生状況とその増減比



全国・本県の交通事故発生状況 (▲減少)

発生	対比	53年		52年		増減		人口10万人当り数	
		件数	率	件数	率	数	率	53年	52年
件数	全国	464,037	460,649	3,388	0.7	406.5	407.3	406.5	407.3
件数	山梨	3,893	4,024	▲131	▲3.3	492.8	512.0	492.8	512.0
死者	全国	8,783	8,945	▲162	▲1.8	7.7	7.9	7.7	7.9
死者	山梨	106	100	6	6.0	13.4	12.7	13.4	12.7
傷者	全国	594,116	593,211	905	0.2	520.5	524.6	520.5	524.6
傷者	山梨	5,205	5,440	▲235	▲4.3	658.9	692.1	658.9	692.1

目立つ女性の事故

本格的な防止対策を

女性ドライバーの急増に伴って、女性ドライバーの交通事故がうなぎ上りに増えていきます。五十三年末現在の県内の運転免許証保有者は、三十二万五千六百三十二人で、このうち女性は九万七千二百七十二人、全体に占める割合は二九・九%ですが、ここ二、三年の状況をみると、男性が毎年五千程度伸びているのに対し、女性は毎年一万人以上の増加を示し、このうち十万人を超えることは確実となっています。こうした状況を反映し

死亡事故を防げ

イエロー・ゾーン作戦

県警は、昭和五十四年度警察運営の重点目標に「交通事故死亡抑制の総合的対策の推進」を掲げ、具体的方策として、死亡事故多発地域を「イエロー・ゾーン」(要注目地域)に指定し、その地域内の道路を中心に各種の安全対策を総合的に実施して、交通事故死亡の抑制を図ることにしています。

指定区分

- ①国中イエロー・ゾーン
甲府市、石和町、竜王町、昭和町、田代町、白根町、若草町、柳井町、甲西町、玉穂村、八田村(二市八町二村)
- ②県境(東北)イエロー・ゾーン
富士市、長坂町、小淵沢町、白州町、武川村(二市三町一村)
- ③県境(郡内)イエロー・ゾーン
富士吉田市、都留市、西桂町、河口湖町、勝山村、鳴沢村、上九一色村(二市二町三村)

事故原因の主なものは、わき見・優先通行違反・歩行者妨害・一時停止違反等で、とくに交差点における右折時の事故が多発しています。年齢別では、二十歳代が一番多く、免許取得後二年以内が三八%を占めています。県警では、この異常な増加に対し、女性ドライバーの会等の協力を得て、女性だけの対象とした安全運転講習会の開設や、資料の作成・配布など、女性ドライバーの事故防止対策を検討しています。



女性ドライバーは年々増加し、本県でも十万人に達するとのことですが、また、女性の交通事故の方も急増し、とくにここ三年間はうなぎ上りという事です。県警の発表では、事故原因の多くは交差点内で発生し、その大部分が優先関係無視した山梨ルールといわれる右折優先と「相手がよけてくれると思った」という見込み運転の甘さが「相手は止まってくれなかった」という責任転嫁のあつかましさがあるといふことです。私は、この内容を聞いて、強いショックを感じました。

わたしの防衛運転

矢崎 みちる

私たち女性ドライバーは、このさい大いに反省し、原点にかえって「安全確認」を徹底し、安全運転の基本に徹して、この汚名をそそぎたいと思います。

度々横断歩道・歩行者保護の違反が上位を占め、とくに速度違反による事故が大幅に増加しています。交差点の事故が多く、とくに、市町村道における事故は四八・九%が交差点で起きています。



イエロー作戦の展開、まず点検が行われている

とおりです。信号機、標識、標示等規制関係の整備を推進する。とくに、横断歩道、自転車横断帯はみ出し禁止等の標示の整備充実にも努めます。道路管理者に対し、危険箇所(ガードレール、歩道の設置、交差点の改良(すみ切り)等)安全対策を重点的に講ずるよう、その促進を図る。また、カーブや坂道の改良、スピード・ダウンの標示、安全溝等の路面改良を要請し、その促進を図る。

ない、危険に近づかない」こととす。その方法として①絶対にはさけない ②追い越さずをさける ③とにかく止まるの三つを守ること



とにしています。今後この三原則を私の防衛運転の信条とし、習慣づけ、安全運転を続けて行きたいと思っています。(市議会議員、須玉町女性ドライバーの会々長)

無保険バイク一掃運動

違反は減点6
バイク(原動機付自転車)の保険加入率は、他の車種にくらべ極端に低いといわれています。

最近婦人層に人気があり、急激な普及率を示している反面、関係する交通事故も、また増加しておりまいます。思わぬ事故を起した運転者が、自賠責保険が切れていたり、保険に未加入だったばかりに、高額な補償を自己負担しなければならなかった悲劇も多いのです。昨年十二月から施行され

山梨県交通安全協会会員の ための災害共済のお奨め

万人は一人のために 一人は万人のために

※ 保険会社の職員が内容説明に伺います。

提供団体 山梨県交通安全協会

引受会社

協栄生命

甲府市丸の内三丁目20-3

TEL 0552 (22) 483644



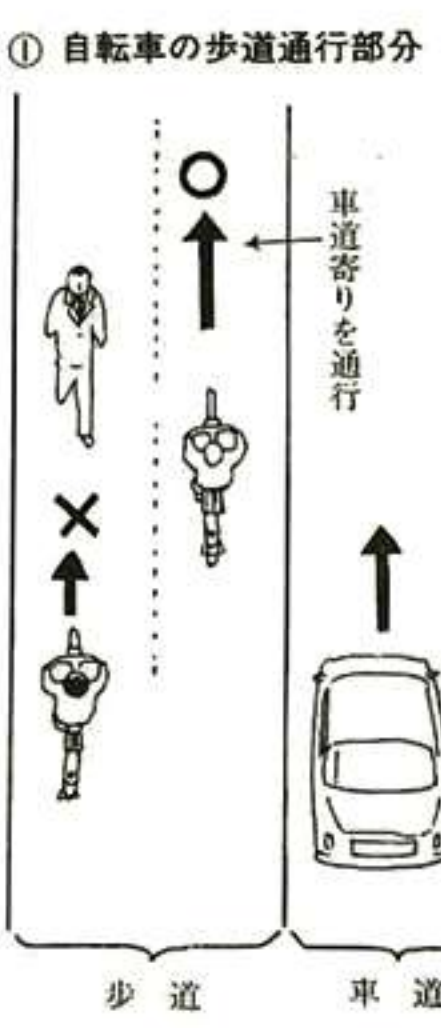
横断は「横断帯」で 歩道では歩行者保護義務も

交通 教室

新しい自転車の交通方法

改正道交法は、昨年の十二月一日から施行され、自転車の交通方法が整備されました。自転車の新しい交通方法を知り、正しい乗り方を身につけましょう。

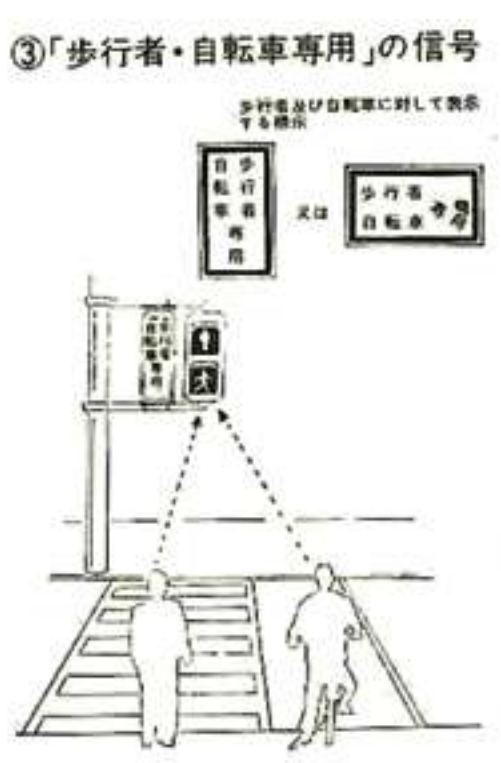
自転車の定義
自転車には二輪、三輪のものが含まれていますが、歩道を通行できるのは普通自転車に限られています。



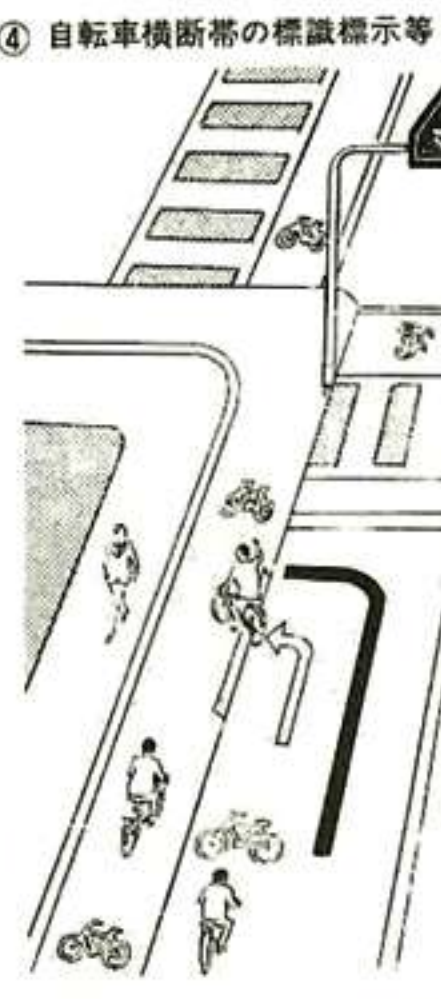
① 自転車の歩道通行部分
普通自転車とは他の車両をけん引しない二輪または三輪の自転車、長さが百九十センチメートル、幅が六十センチメートルを超えないものとされています。二人乗り用のものは歩道通行はできません。



② 歩行者の保護
普通自転車は、歩道を通行するとき、歩行者の通行を妨害することとなる場合は、一時停止しなければなりません。つまり、歩行者に対する保護義務があるわけです。イラスト②



③ 「歩行者・自転車専用」の信号
道路横断の方法
自転車は、道路を横断しようとするときは、「自転車専用」のある場所やその付近では、その自転車専用横断帯で横断しなければなりません。



④ 自転車横断帯の標識標示等
停止表示板は基準に合ったものを
認定品TS器材を
あつせん
道交法の改正により、自動車事故の理由に、より、高速道路の本線車道、加速減速線、登坂車線、又はこれに接する路肩、路側帯において停止するとき、停止表示板によって明らかに表示しなければならぬことになりました。

その手前の直近で、交差点への進入を禁止する道路標示があるときは、その標示を越えて交差点にはいってはいけません。
このような場所では、普通自転車は、左側の歩道に

うにしなければなりません。イラスト④
完全なブレーキ、完全な後部反射器を備えた自転車は、ブレーキランプは三万円以下の罰金となり、完全なブレーキとは、十キロの速度で三メートル以内でとまらせる性能を有するもので、完全な反射器とは、夜間百メートルの後方から、自動車のライトで照らして反射がはっきりわかるものです。



武田神社で交通安全祈願祭
恒例の県安協の交通安全祈願祭は、1月8日武田神社で行われました。祈願には、県安協役員多数と、県警本部からも八島本部長をはじめ交通幹部、白バイ隊員も参加し「ことごと、交通死者を2ケタまで減らすように」と決意を誓い合いました。

交通安全のしつけを 大切なお母さんの指導

毎年交通事故は減少していますが、そのなかで、被害者の多いのが、子どもと老人の事故です。とくに、子どもの交通事故の責任は、親にもあり、とりわけ母親の指導は重要といえます。新入学に当たり、お母さん方は子どもの特性を正しく理解し、子どもに交通安全の基本を身につけてさせてください。

側から友だちや母親に声をかけられた場合、ボールを追いかけるとき、犬といっしょに走る場合などが、最も危険なときです。
4 車の直前・直後の横断
この事故の多いケースの一つ。この事故は、とび出しについて多いのがこれです。駐車中の車や通り過ぎた車のすぐ後ろを横断すると、反対側から車がくることもあり、またいったん止まってきた車の前を渡ろうとすると、その車の後部から急に別の車がきいて、はねられる場合があります。よく注意して指導してあげてください。

県下一の
広いコースで 早い上達を！
伝統ある当校で
1日も早く免許証を あなたの手に
財団法人
山梨県交通安全協会経営
公認 山梨自動車学校
八田村野牛島1828 山梨県運転免許センター内
TEL 05528-5-0752